

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700106		
法人名	株式会社 なかよし		
事業所名	グループホーム こよし		
所在地	岡山県井原市高屋町3-25-30		
自己評価作成日	平成26年11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390700106-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390700106-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年11月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔や笑い声のある家庭的な雰囲気づくり、入居者様一人ひとりが自分らしく安心して過ごしていただけるよう、柔軟な対応を心掛けています。また、ご家族とも連絡を密にし、関わりを継続しながらご本人が穏やかに生活できるよう努めています。季節を感じられるようドライブに出かけたり、月1回のお楽しみランチやおやつ作りには一人ひとりの力を発揮できる場面作りも整えています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は毎日家族のように入居者や職員を気にかけて、一人ひとりに声をかけることを心掛けている。管理者は「みんなと一緒に話し合いながら問題解決できる環境はありがたい。」と語り、職員は「自分達のことをよく気にかけてくれている。認めてもらっている。大切にしている。」と話す。入居者と職員は垣根を感じさせず、代表者の温かい雰囲気という想いが十分に伝わってくる事業所でした。来春には同一敷地内に認知症デイサービスを開設する予定である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に認識していただけるよう施設内の目につく所数か所に掲示している。ミーティングや日々の業務の中で、どのようなケアを行うかを決める軸になっている。	事業所独自の理念があり、施設内に掲示している。職員は日々の支援において常に理念を意識し、話し合いながら信念を曲げず業務にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供神輿の立ち寄りがあったり、散歩時には声掛けを頂くこともあり、わずかだが交流している。地域の一員として、交流をもっと深めていきたいと思っている。	代表者は地元住民でもあり、地域とのつながりを大事にしている。入居者が地域の人々と触れ合う機会は少ないが、散歩中や日なたぼっこ中に近所の住民が声を掛けてくれる。	運営推進会議を通して働き掛けを行っており、地域に向けた更なるアプローチに期待を寄せる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者や家族等から相談を受けたり、事業所の見学を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人の小規模多機能と一緒に開催し、事業報告を行っている。地域の方の理解と意見を得ながら、サービス向上に活かし、地域に根付いたグループホームを目指している。	同一法人の他事業所と合同で定期的に開催している。家族をはじめ地域の方々、市役所職員、地区学校長等が参加し、活発に意見交換等が行われ、地域とのつながりを深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市サービス連絡協議会で情報を得たり、運営推進会議で市の担当者に現状を伝えたり、意見を伺ったりしながら、協力的な関係が築けるよう努めている。	管理者は書類等に関する疑問点があれば相談し、アドバイスを得ている。現状についても運営推進会議の中で伝え、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は一人ひとりその人らしく暮らしていけるよう心にとめ支援している。身体拘束をしないことを原則としながら、夜間職員一人対応の時に限り、利用者の安全を最優先し、家族に具体的に説明、理解を得た上で安心できるケアを行っている。	安易に拘束することはせず入居者の状態を十分に見極め、やむを得ず身体拘束を行う場合については最小限に留め、家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の方に常に尊敬の念を持ち、声掛けや態度に気を付けている。虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ制度を利用する入居者がおられない。必要時には活用できるよう学ぶ機会を、と考えているがまだできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約業務を行う。本人、家族が疑問に思われることがないよう、一つ一つ項目、内容を説明させていただき、随時疑問点にはお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時や受診同行時等平素から気軽に話して頂ける雰囲気づくりに心掛け、意見・要望は早急に対応、運営に反映させている。	入居者や家族が、日常会話の中で気軽に意見や要望を出せるような環境作りを心掛けている。出された意見や要望は些細なことも大切に聞き取り、申し送りノートで全員に知らせ、速やかに改善に向け対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや緊急時のミーティングを設け、職員の意見を引き出している。普段は「申し送りノート」や、日々の勤務の中で会話で統一を図り、早い対応を心掛けている。	管理者は意思の疎通が取りやすい環境作りを心掛けており、職員が疑問に思ったことを溜め込まず、話し合えるよう配慮している。また、申し送りノートで意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の勤務状況を把握し、声掛けや会話により向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や、外部研修に可能な限り参加し、参加したメンバーから皆に広めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市サービス連絡協議会や地域の研修会に出席しながら、他の事業所と交流を図ったり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約までに本人、家族と面談し、不安なこと、希望をお聞きしながら、安心につながるよう一つ一つ説明し、信頼関係につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前までの家族の負担、不安や本人への思いにじっくり耳を傾けて、以前の関係が保てるよう聞き出す努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談する段階で、どういう関わりが必要か、どう関わることで、家族も安心して生活が送れるかを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の気持ちを常に持ち、本人を介護されるだけの立場におかず、暮らしを共に支え合う関係を続けていけるよう気をつけている。洗濯干し、たたみ、料理盛り付け等できることで役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も本人の様子を家族に密に伝えながら、いつでも面会に来て頂ける雰囲気づくりを大切にしている。家族、親戚の面会の回数も多く、受診の同行も積極的に関わって下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、知人が気軽に来所しやすいよう雰囲気作りに努めている。コミュニケーションがスムーズにできるよう職員が間に入り会話をフォローすることもある法人内デイにお連れすることも多い。	面会に来られた際にはできる限り入居者との大切な時間をゆっくりと過ごして頂ける様声掛けを行っている。また、同一法人の他事業所を利用されていた方はそちらに出向き、馴染みの方とのふれあいを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの様子を観察し、関わりがもてるよう席を考えたり、職員が関わることで孤立せず、穏やかに過ごせるよう雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスに変わられた時は情報提供を行ったり、終了後も入居先を訪問する等して関わりを必要とする家族とは、連絡を取り合い相談を受けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との毎日のコミュニケーションから、希望を把握できるよう努めている。自分の思いを伝えるのが困難な方に対しては、家族から情報をもらったり、職員間で検討し、その人らしい暮らしを見出そうとしている。	家族からの情報や入居者との日々の関わりの中の何気ない一言から思いを汲み取るよう努めている。また内容を連絡ノートに記載し職員間で情報共有し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅訪問し、これまでの生活、環境を見せてもらったり、ご家族から生活歴や本人のこだわり等の情報収集を行ったりしている。また、以前担当のケアマネからも、これまでの様子を情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、その方に応じた一日の過ごし方が出来るよう努めている。また同じ時間を共有する中で心身の状態変化に気づく。それを記録として残し職員全員で情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を聞き、現状の課題や本人の持っている力についても話し合いながら、楽しみが持てたり、より良く生活できるような介護計画の作成に努めている。	ケアマネージャーは担当職員によるアセスメントを基に、本人や家族の要望を反映させた介護計画を作成している。各関係者の意見を取り入れ不安なく快適に過ごせる事ができる内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきなど個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、統一したケアにもつなげている。また、モニタリング時にも活用し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生まれてくるニーズに出来るだけ早急に対応できるよう努めている。本人の思いをしっかりと聞きご家族と連携をとりながら柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の他事業所への行事参加、子供会との関わりは持っているが、さらに地域との関わりがもてるようアンテナを立てて、資源把握を行い、本人の暮らしに楽しみが持てるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続して頂いている。家族との受診に同席させて頂いたり、往診時に家族に代わり状況や経過等細かく伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。とても良い関係を築けている。	かかりつけ医には日々の状態などを随時報告し連携を図っており、夜間や緊急時にも対応していただけるなどの良い信頼関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時や急変時はもちろん、便秘や血圧、服薬のことなど、日常生活の中で気になることを看護師に密に連絡、相談し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の生活情報を病院へ提供する。入院中は本人に面会に行くと共に、看護師や医師に面談、状態把握する。退院が決まったら日常生活の注意点等確認し職員間で統一する。各々かかりつけ医との関係づくりはスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の想いを十分に聞き取り、かかりつけ医、事業所を混じえて方針を決めていく。ご家族が思い通りの看取りができるよう、職員もその時その時で最良のケアができるよう、病院とも密に連絡をとり対応している。	かかりつけ医、家族、事業所とが話し合いの場を持ち、今後予測されることを細かく話し合い、揺れ動く家族の思いをくみ取りながら安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡マニュアルを作成し、ミーティング時に繰り返し確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回防災訓練を実施して、消火避難方法や連絡方法の確認を行っている。運営推進会議でも報告し、意見をいただいている。	年2回訓練を実施している。同一法人の小規模多機能事業所やデイサービスとの相互協力体制が確立されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム内での利用者間の関係が穏やかでいられるよう会話の間を取り持ったり、代返したりして、利用者の人格を尊重し大切にしている。各居室にはいる時は本人の了解を得ている。	入居者を目上の方として尊敬の念を持ち、何気ない言葉や態度についても意識をし、気を配りながら接している。入室の際にも必ず声をかけ、失礼のないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々生活の中で思いを口に出して頂けるよう話しやすい雰囲気づくりを行っている。難聴の方には筆談にて説明し、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日その時の心身の状態を考慮し、気持ちよく過ごして頂けるよう、その人のペースを大切にする努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時家族より、本人の理美容や洋服の好みなどを伺い、それに沿って支援できるよう気を付けている。散髪は訪問美容を利用。本人と相談し、家族に了解を得てお願いしている。男性は髭剃りの声掛けを行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	持っている能力に応じて、盛り付け、片付けを一緒にして頂いている。季節や行事、食材の旬に合わせ、食事を楽しんで頂けるよう、月1回位のペースで行事食を計画している。	入居者の状態にあった形態で食べやすいよう工夫し、しっかりと味わいながら食べて頂けるよう声かけしている。入居者同士が声かけをしながら食事されている微笑ましいひとコマもあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録に残し、体調や排泄、睡眠など考慮し、食事の形態や量等一人ひとりの状況に合わせる支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、口腔ケアを行っている。その人に応じ、見守りや仕上げ磨きを行う。隔日で義歯を洗浄剤につけ清潔を保っている。状態により歯科受診を勧める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や仕草により各々の排泄パターンを把握し、それに合わせて声掛け、誘導している。失敗のある方でも、日中は布パンツ、夜間は紙パンツ+ポータブルトイレと、出来る限りトイレでの排泄を支援している。	トイレでの排泄を基本としている。排泄管理の必要な入居者はパターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。排泄後の清潔にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔を把握し、運動や水分摂取、食事や間食で食物繊維を摂って頂く工夫をする。状態により服薬等の対応にて、便秘が長引かないよう取り組んでいる。また、ストレスのない生活を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調やバイタル測定にて入浴者を決めている。入浴で気分転換を図って頂くこともある。入浴拒否の方にも声掛けを工夫し、気持ちよく入っていただけるよう支援している。	入浴は週2~3回となっているが希望に沿って臨機応変に行っている。入居者と職員が個別に接する中でコミュニケーションを深めながら寛いだ気分で入浴している。全体を観察し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの生活習慣やその時の心身状況に応じて生活できるよう関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を綴り、目的や量を把握する。用法容量により、分けて保存。服用時一人ひとりに手渡し確認する。副作用に注意し、状態観察に努めている。変化があれば看護師に相談、受診なども検討する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、本人、家族より生活歴・好み等確認し、お一人ずつの得意なこと、興味あることをレク等に取り入れて、楽しみや張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先での日向ぼっこ、スーパーへ買い物等、少しでも外出出来るよう支援している。入居者の状況によりドライブで気分転換を図ったり、一人ひとりにあわせて外出支援を行っている。	外出が難しい状態の方でも事業所内で気分転換出来るよう配慮されている。時期によっては庭で日向ぼっこをする等気晴らしの機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高価な物や不要なお金は持ち込まないようにして頂いている。欲しいものがある時は、家族等と相談し外出時に買い物に出かけたりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は、職員が家族等へ連絡させて頂いている。年賀状など頂き、スタッフが代読する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、家族が来所された時に一緒に撮った写真を飾ったりして、少しでも穏やかに、心地よく過ごせるようにしている。空気清浄器やオゾン発生装置を設置し、温度や湿度、音、臭い、除菌に気を付け、快適に安心して暮らせる空間をつくっている。	隅々まで掃除が行き届いている。随所に空気清浄機やオゾン発生装置が置かれ、安心して暮らせる環境である。職員と入居者の笑い声が響き、健やかに過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置や場所(ホール、廊下、窓際、玄関等)で独りになれたり、気の合ったもの同士で過ごしたり出来るよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込んで頂いたり、家族の面会時一緒に撮った写真等を飾っている。各々居室に表札をつけ、職員が入室の時は、本人に理由を伝え入らせて頂くようにしている。	思い出の品物や使い慣れた家具などを持ち込み、好みに配置され、居心地良く過ごしている。また、入居者の日々の様子を撮影し、アルバムに収めて、家族に安心してもらえる様取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、安全に移動できるように空間に気をつけている。部屋の表札も視線にあわせ低めに設置し、「安全」かつできるだけ「自立」につながるよう工夫している。		